

# Skype 通話を利用した 外国語会話訓練システムの構築と運用

柳沢 雪絵<sup>†</sup> 松本 章代<sup>†</sup> 佐伯 啓<sup>†</sup>  
<sup>†</sup> 東北学院大学教養学部

## 1 はじめに

我々は、数年前より外国語の会話訓練を目的として「教員が指定した日時に学習者に電話をかけ、あらかじめ用意した音声再生するシステム」を開発している。運用上必要である機能と要望のあった機能を実装し、実際に授業やゼミで運用、学習効果の調査を行った。

## 2 研究背景

外国語会話を身につけるには毎日の訓練が欠かせない。CD やラジオを聴くだけならば費用はさほどかからないし、近年は Podcast を利用しモバイル機器でリスニングの訓練を行う取り組みも報告されている[1][2]が、いずれにしても積極的に学ぶ姿勢や意欲がなければ、継続することは難しい。そこで教員、学習者共に費用・通学時間はかからないように、強制力があり、少々学習意欲に欠ける学習者でも継続して外国語会話の訓練を行うことができるシステムを開発する。

## 3 システム概要

学習者は Skype をインストールしたスマートフォン、教員は PC 上のウェブブラウザを用いて本システムを利用することを想定している。3.1~3.3 節では、本システムの機能の一部を説明する。

### 3.1 教員が音声・テキストを配信する機能

教員がウェブブラウザ上から学習者と配信する日時と音声ファイルを指定し、学習者のスマートフォンに Skype 電話をかけ音声を自動再生することができる。本システムで配信される音声ファイルには学習者が音声に回答するための無音の間が設けられており、学習者はその間の間に適切な返答を発話する。教員から電話がかかってくるという強制力があり、機械相手なので気後れせずに会話の練習ができる。また、音声と一緒に、配信音声を文字起こしたテキストを配信する機能が付いている。この機能を使用すると、音声の再生が終わったときに Skype のメッセージとして教員が指定したテキストが送信される。学習者は配信されたテキストを見直し、自分の聞き取りが正しかったのか、適切な回答ができていたのかなどを確認することができる。

### 3.2 音声配信時に学習者の名前を呼びかける機能

Skype の電話で音声を流す前に、学習者の名前を呼びかける。電話にでると名前を呼びかけられるので、実際に外国人と会話しているような臨場感のある会話の訓練ができる。

### 3.3 教員が配信結果を確認できる機能

教員は学習者が電話を取ったかどうか、応答をしたかどうかをウェブブラウザから確認することができる。教員によって取り組みをチェックされるという強制力があるので、学習者が毎日継続して電話に回答することや、聞き流しの自制が期待できる。

## 4 評価実験

本システムは、東北学院大学教養学部言語文化学科の学生を対象とし、学習効果の調査を目的とした実験を行った。さらに、対象の学生に対して実験終了後にアンケートを実施した。アンケートでは、本システムを利用した学習と自分で学習することの比較や、本システムでの学習を通して「聞き取れるようになった」「話せるようになった」という実感は得られたかについて尋ねた。聞き取れるようになった実感がある人は 17 人中 7 人、少し実感がある人は 17 人中 10 人となり、話せるようになった実感がある人は 17 人中 5 人、少し実感がある人は 17 人中 12 人となった。どちらの質問でも実感が無いと回答した人はいなかった。

一方、電波状況によって Skype に不具合が発生することが確認された。

## 5 まとめ

本システムを利用して学習した学生全員が「聞き取れるようになった」「話せるようになった」と実感していた。今後は、一般電話回線を用いたシステムへの移行を検討していく。

## 参考文献

- [1] 郭静静, 小林葉麻子: 中国語授業におけるポッドキャスト・音声教材開発の試み, 大阪女学院大学紀要, Vol. 3, pp. 79-91 (2006).
- [2] 榎田一路: オリジナル英語学習用ポッドキャストの携帯電話への配信, 広島外国語教育研究, No. 15, pp. 75-87 (2012).